

アゼルバイジャンにおける太陽光発電

アゼルバイジャン政府によると、2020 年のアゼルバイジャン国内の総発電容量は 7,516MW でした。太陽光発電に限ってみると発電容量は 40MW で、総発電容量の 0.5%です(参考:風力発電は 66MW)。このように現時点で太陽光発電容量が占める割合はごく僅かなものですが、エネルギー省はアゼルバイジャンの潜在的な太陽光発電容量を 23,040MW と試算しています。

現在のアゼルバイジャンの太陽光発電容量 40MW の約半分は、アルメニアとイランに挟まれた飛び地であるナヒチェヴァンに位置する太陽光発電所によるものです。このナヒチェヴァン太陽光発電所はベルギーのソルテック(Soltech)社が建設したもので、2015 年12月に稼働を開始しました。同発電所は 35 ヘクタールを有し、約 8 万枚のソーラーパネルが設置されています。

また、昨年 1 月には、エネルギー省が太陽光発電のパイロット事業の実施に関して、アラブ首長国連邦のマスダール社(Masdar, Abu Dhabi Future Energy Company)と契約を交わしました。同契約により 230MW の太陽光発電所が建設される予定であり、アゼルバイジャン政府によれば、投資契約、PPA(電力販売/購入契約)、接続契約の締結に向けた準備が進められています。

さらに、アジア開発銀行(ADB)のアゼルバイジャン、アフガニスタン、キルギスを対象とした(無償)技術協力案件では、各国で水上太陽光発電のパイロット事業を行うことになっており、アゼルバイジャンではアブシェロン半島にある9つの湖の内、最大の湖であるボユクショル湖に 800m²の 100kW の発電容量の水上太陽光発電設備を設置する計画です。ADB は、理論上、同湖には 500MW の太陽光発電設備を設置できるとしています。

アゼルバイジャン政府は、太陽光発電の拡大のために公共施設の屋根への太陽光パネル設置も推進しており、具体的には大規模スポーツ施設や学校でそのような取り組みが進められています。

(以上)